

こども新聞

週刊がほびョンピエ



毎週日曜発行
2019 9/1

河北新報社 TEL.022-211-1111(白濁から全線)

海と日本 プロジェクト 南三陸

三陸の海と山々に囲まれた宮城県南三陸町。東日本大震災を乗り越えて人々は恵みをもたらす自然との共生に取り組み、豊かな環境が世界的に評価されているよ。かほびョンは8月5、6日、日本財団の「海と日本プロジェクト」ロみやぎに参加し、県内の小学生2人と南三陸の自然について学んだよ。



南三陸町の志津川湾は北から流れ込む寒流と南からの暖流が混ざり、冷たい海と暖かい海で育つ藻や海草が共存する世界でも珍しい海域。

藻が茂る海の森は魚や貝などのえさ場やすみかた山に降った雨も栄養分を多く含んで川から海に流



船に乗って村岡さんから志津川湾の環境について話を聞く子どもたち=8月6日

志津川湾で豊かな自然学び

れ込み、さらに海を豊かにします。



海藻をえさとする国の天然記念物コクガンなど水鳥も多く訪れます。水鳥の生息地として国際的に大切な湿地を守る「ラムサール条約」の対象地に2018年、海藻漂着場として国内で初めて指定されました。

の漁業村岡賢一さん(69)の小学生たちは戸倉地区



の船に乗り、カキやホヤの養殖いかだを見学しました。村岡さんは「以前は養殖いかだが多すぎた。震災後に地区のいかだを3分の1に減らしたら、カキの質が良くなった」と説明。環境を大事にした養殖業への国際認証を、日本で初めて取得したそうです。

同行した町自然環境活用センター研究員阿部拓三さん(45)は「志津川湾の環境を守るため、森と里、海つながりの中で人々がさまざまな取り組み

岩沼市岩沼南小5年3浦孝介君(10)は「里も川も海も一つの生態系と分かった。海を守り頑張る漁師さんを見て、魚を大事に食べようと思う」と話しました。

このほか、森の間伐や「海藻押し葉」作りもやっただよ。8面も見てね!

今週の注目ニュース

◇6日(金) 京アニの新作映画公開(～26日)
放火事件でたくさんの方が亡くなった京都アニメーションの新作映画「ヴァイオレット・エヴァーガーデン外伝—永遠と自動手記人形」が、全国の映画館で公開されるよ。

◇7日(土) 全国豊かな海づくり大会(～8日、秋田市)
漁業の発展や環境を守る大切さを訴えるため毎年、全国の都道府県が持ち回りで開催大会だよ。8日の式典と魚の放流には、天皇陛下も参加されるんだ。

8 海の恵み満喫

2 サイエンス 3 3分チヤレンジ 4.5 いいね小学校 6 英語 7 かほくワークショップ 8

海と日本

プロジェクト

南三陸

日本財団「海と日本プロジェクト」環境悪化など海で起きている課題を伝えながら、子どもたちに豊かな海を引き継ぐための活動を支援する事業。2015年に始まり、全国47都道府県で実施しています。宮城県では16年に始まり、今年が4回目となります。

子どもたち 自然満喫

宮城県南三陸町であった日本財団の「海と日本プロジェクト」みやぎ」で、参加した県内の小学生たちは町内の山で余分な木を切り倒し、健康な森を育てる間伐作業も体験しました。南三陸町は面積の77%が山林で分水嶺に囲まれており、町内に降った雨はすべて川から海に流れ込みます。町の林業者は将来にわたり森の恵みを受けられるよう、森の環境保全に力を入れていきます。質の高い木材を育てるため植生や間伐に取り組んでおり、国際的な認証も得ています。林業「佐久」専務の佐藤太一さん(34)が「森には水を止める、生物の多様性

間伐作業

を守るなどの働きがあり、間伐は森の働きを活性化させる。山を管理することは豊かな海を守るためにも欠かせない」と森と里、海のかせがりを強調しました。子どもたちはのこぎりを手に、佐藤さんがチェーンソーで切り目を入れて切りやすくした木の伐採に挑戦。高さ数メートルの木が音を立てて倒れると、歓声が上がりました。仙台市宮城野小6年阿部真聖君(12)は「長い年月をかけて育った木を切るのは大変で手が痛くなったけれど、この痛みは命の重さだと思って。森のために役に立てたならうれしい」と目を輝かせました。



豊かな海を育てる森を整えるため、間伐に挑戦。8月6日

環境保全 命の重さ実感



自分たちで採集した海藻を材料にして海藻押し葉作り。8月5日

子どもたちは南三陸町内の岩場で集めた海藻で「海藻押し葉」も体験しました。の岩場で集めた海藻はがきサイズの紙に広げて、花火や桜並木などを表現しました。仙台市鶴巻小5年高橋摩迦さん(11)は「海にも森がある」と聞いて、その様子を想像して描きました。陸と川と海はつながっていて陸を汚すと海も汚れてしまうので、普段の暮らしを気をつけようと思った」と真剣

海藻押し葉

このほか、志津川魚市場を見学したり海藻でふりかけを作ったりして、南三陸町の魅力をまとめて、2日間の学びのまとめとして、南三陸の恵みを生かしたオリジナルの具入リストのレシピと商品名について考えました。子どもたちが出したレシピと商品名のアイデアは、民子さん(57)が具体的に商品化します。今後、インターネットで販売するそうです。

花火や桜表現 海中の森も

夏休みが終わわり、久しぶりの学校はどんな感じですか？ 最初の日は、ちよっとときどきしなながらの登校だったのでは？ 編集長は、夏休みの間にみんなそれぞれ冒険をしたのだと思っっています。海や山での遊びが遊んだ人もいます。緊張する場面を経験した人もいます。新しい毎日に向けて、フレール！

【投稿規定】▶募集作品 ①イラスト②詩③意見文 (②③は300字以内)▶あて先 〒980-8660 (住所不要) 河北新報「みんなのヒロバ」係▶記入事項 自宅住所、名前(ふりがな)、電話番号、小・中学校名と学年▶その他 ①②はペンネームで掲載できます。掲載後に記念品を差し上げます。

クインズの応募や投稿でいただいた個人情報は、適切に管理します。河北新報社のお知らせなどに使用させていただきます。応募作品は返却しません。

編集長から